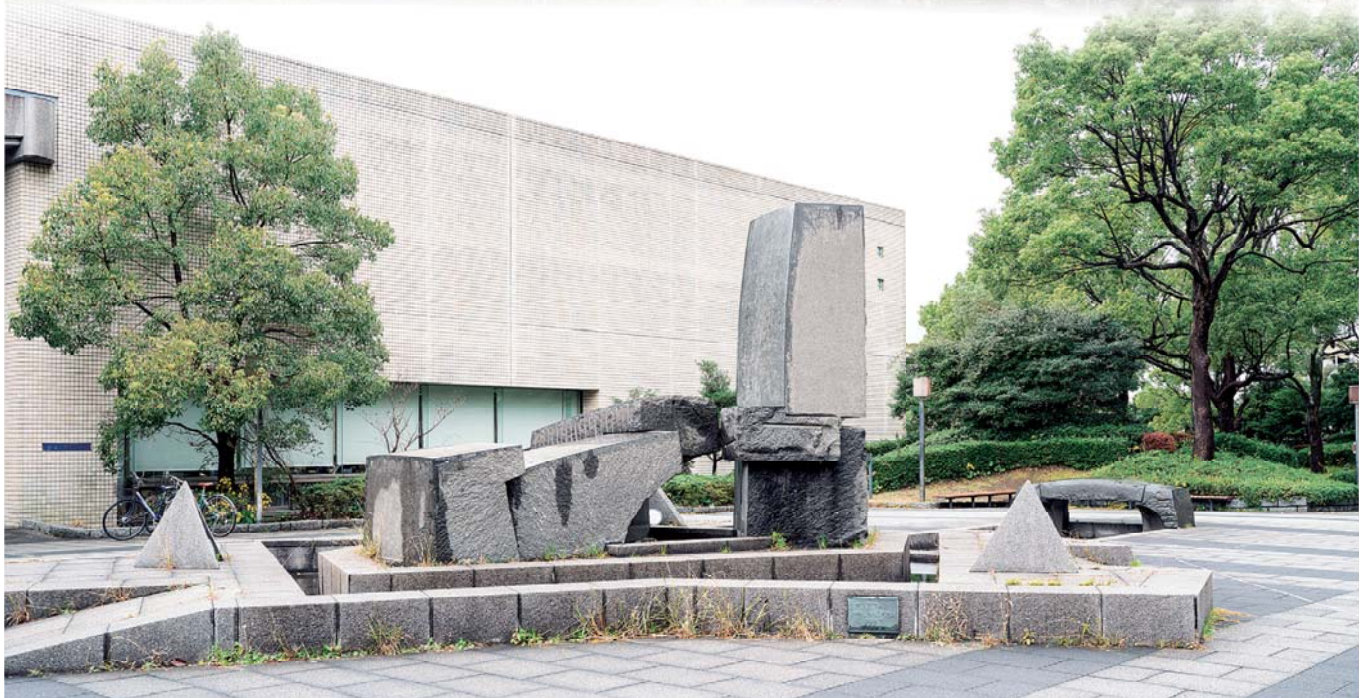




横浜市立大学医学部形成外科学教室 同門会誌 2025

*Department of Plastic and Reconstructive Surgery,
Yokohama City University. Tagliacozzi club*



◆ 横浜市立大学医学部形成外科学教室 同門会誌2025 目次 ◆

巻頭言 ご挨拶	前川 二郎	1
主任教授挨拶 赴任後3年目を迎えて	林 礼人	2
2024年度 教室年譜		3
近況報告		
近況報告	目黒本町MJクリニック 前川 二郎	7
開院2周年を迎えて	はむら皮ふ・形成外科・内科クリニック 醍醐 佳代	8
比類無きリンパ浮腫専門施設の建立		
NACSクリニック リンパ浮腫センター北横浜	長西 裕樹	9
近況報告	青木形成外科 北山 晋也	10
近況報告	えりこ形成外科クリニック 開田恵理子	11
近況報告	R形成外科皮膚科クリニック 梅田 龍	12
大学病院報告		
横浜市立大学附属病院	三木亭人 / 林 礼人	13
横浜市立大学附属市民総合医療センター	小久保健一	14
高度救命救急センター 形成外科チーム	黒柳 美里	15
関連施設報告		
地方独立行政法人神奈川県立病院機構		
神奈川県立こども医療センター 形成外科	小林 眞司	16
横浜労災病院	山本 康	17
関東労災病院	荻野 浩希	18
横浜栄共済病院	岩瀬わかな	19
済生会横浜市南部病院	奥山 智輝	20
藤沢市民病院	藤井 晶子	21
藤沢湘南台病院	篠木 美穂	22
茅ヶ崎市立病院	三上 太郎	23
新入教室員挨拶		24
林 礼人主任教授就任祝賀会報告		
主任教授就任祝賀会を終えて	林 礼人	30
第39回日本眼窩疾患シンポジウム報告		
第39回日本眼窩疾患シンポジウム開催を終えて	小久保健一	33
形成外科沿革		
2024年度を振り返って		34
特別寄稿		
林礼人主任教授就任祝賀会 ご挨拶	林 礼人	35
業 績		38
同門会会則		42
同門会名簿		46
2024年度会計報告		52
編集後記		

ご挨拶

横浜市立大学形成外科学教室同門会 会長
目黒本町MJクリニック 院長
前川二郎



日本の形成外科草創期に活躍され、横浜市立大学形成外科の創始者である教授塩谷信幸、同時期に教室の立上げに参加された前田華郎先生が今年、ご逝去されました。お二人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

教室にとってお二人の存在はとても大きく、お二人を失い、一つの大きな時代が終わったことを強く感じています。塩谷先生は私が横浜市大形成外科に入局した1984年、北里大学形成外科の教授でしたが学生教育のために毎週、形成外科病棟（当時の1-1病棟）に来てポリクリの指導を行っていました。すでに多くの形成外科関係の学会を主催されており、雲上人の様でした。前田先生は神奈川県立こども医療センターに部長として活躍されており、横浜市大と北里大学から多くの若手形成外科を指導していました。私も週に一度、手術の手伝いに行く機会があり、唇顎口蓋裂手術、小耳症手術など多くのこどもの手術を経験することができました。とても気さくな先生でした。お二人とも、90歳を超えてもお元気に活躍されていました。人生100年時代と言われていますが、お二人を見ていると、健康に留意していれば90歳くらいまで医師としての仕事ができる様に思えてきます。私自身は形成外科医としては70歳後半まで、医師としては80歳半ばくらいまでは仕事ができれば良いかなと考えますが、今は顕微鏡などを積極的に使うことで形成外科医としての寿命を延ばそうと思います。

横浜市大形成外科教室は今年も多くの新入教室員を迎えました。みなさんはまず形成外科専門医を目指し、さらに形成外科の様々な専門領域を深めていくことと思います。自身の経験から専門医を取得してからが、息の長い形成外科医の基礎作りに大事な時期ではないかと思います。頭頸部再建、乳房再建、眼形成外科、顔面神経麻痺の治療、小耳症や唇顎口蓋裂、顎顔面変形の治療など、その後はリンパ浮腫診療に専門を広げてきたことは開業した自身にとって大きな助けになっています。草創期を駆け抜けてきた塩谷先生、前田先生はどのような気持ちを持っておられたか。想像するに、日々高揚感を持ちながら、新たな手術を試み、新たな治療法を取り入れ形成外科分野の裾野を広げていったと思います。専門医取得を目指している若い教室の先生には是非、専門医取得後もなるべく多くの分野に興味を持ち、専門を広げるように研鑽を積まれることを期待致します。

赴任後3年目を迎えて

横浜市立大学形成外科 主任教授
林 礼 人



2022年10月に赴任させて頂いてから、早くも3年目を迎えています。主任教授の交代に伴う周囲の環境変化は想像以上に大きく、日々、様々な形で絶え間なく生じる事柄への対応に追われていますが、その一方で、少しずつではあるものの、大きな船が確かに動き出しているという実感も得られるようになってきています。とりわけ今年度は、後期研修医7名を含む8名の新入局者を迎えることができたことが非常に大きく、医局の未来を明るく照らしてくれていると感じています。

赴任後に取り組んできたホームページの刷新、院内関連診療科の先生方とのWEBセミナーの開催、市民公開講座の実施などを立て続けに行い、ややロケット的なスタートとなった臨床的な取り組みについても、遠方を主体としていた紹介症例に加え、近隣の医療機関からもご紹介をいただけるようになり、外来・入院患者数、手術件数ともに右肩上がりの状態を継続出来ています。改めて、多くの患者さんをご紹介いただいている医療機関の先生方、難治症例の治療にご尽力くださっている脳神経外科・放射線科を中心とした関連診療科の先生方、日々の診療や治療に真摯に取り組んでくださっている外来・手術室の看護師の皆さま、ならびに医局スタッフの先生方お一人おひとりに、心より御礼申し上げます。

また本年は、コロナ禍と台風により順延となっていた私の主任教授就任祝賀会を1月に開催して頂き、遠方からも非常に多くの先生方のご臨席を賜りました。加えて、温かなお心遣いを様々な形で頂戴し、これからの決意を一層強固なものとして新たな一年をスタートすることが出来ました。ご多忙の折にお時間をお作り頂いた先生方に、改めて厚く御礼申し上げます。

学術面では、国際学会からの発表依頼も多く、アメリカ末梢神経外科学会でのInstructional courseをはじめ、スペインで開催された世界マイクロサージャリー学会、国際顔面神経学会、さらに韓国やスウェーデンなど複数の学会からも講演依頼を頂きました。世界各国の先生方との絆がより広く、より強固なものになってきていることを実感しています。国内学会においても、想いを持って取り組んできた日本顔面神経学会、日本皮膚悪性腫瘍学会、日本創傷外科学会でも新たに理事を拝命し、学会の発展に思いを馳せるとともに、限られた時間の中で何が出来るかを具体的に考え、着実に実行していきたいと考えています。来年には、第49回日本顔面神経学会を聴神経腫瘍研究会との併催という形で主催させていただく予定です。「心からの笑顔を 開かれた未来に」というテーマを体現できる学会となるよう、誠心誠意尽力していきます。

附属病院では、新たな治験や企業・他施設との共同研究の話も具体化してきています。大学院にも新入生を迎え、研究領域の発展を導くことで、医局全体に新たな風をもたらすことができればと考えています。

一方でこのたび、横浜市立大学形成外科の創始者である塩谷信幸教授、ならびに同時期に教室の立ち上げにご参画され、礎を築いてこられた前田華郎先生のご逝去に接し、痛恨の念に堪えません。お二人が切り拓かれた形成外科の歩みと、教室に注がれた多大なるご尽力に、改めて深甚なる敬意と感謝を捧げますとともに、ここに謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

同門会については、ホームページが本格稼働し、会費制の導入、同門会誌の定例化など、新たなフェーズを迎えつつあります。これからの発展を見据え、実りある一年を積み重ねていけるよう、日々邁進していきます。今後とも、変わらぬご指導ご鞭撻ならびに温かいご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2024年度 教室年譜



●2024年 形成外科学会総会（神戸）



さかなクンを招いたり、ドローンを駆使していた。
懇親会はクルーズ船でとても華やか。

総会での医局懇親
前川先生も駆けつけてくれました。

●留学生

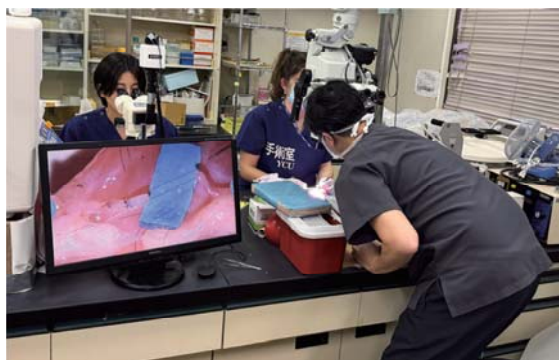


留学生との集合写真

横浜市立大学附属病院では、国外からの留学生の受け入れを積極的に行った。



スイスから独自に1ヶ月間いらしたロレーナ先生に修了書を贈呈。とても意欲的で感銘を受けました。



留学生にマイクロレクチャーをする北山先生と、それに混ざる 飴井先生。



HPの集合写真（病院の屋上にて）
朝早く集まっていて、実は寒くて眠い
スタッフ一同。やせ我慢しながら撮っています。



● 第14回日本褥瘡学会 神奈川在宅セミナー 主催（2024年7月7日）



林 礼人教授、矢吹雄一郎先生 林教授による開会挨拶 座長を務める矢吹先生
を主体に当医局で運営。

横浜市大の褥瘡回診メンバー
による教育講演



● 夏の思い出



JSSVAで発表を行った飯塚先生、飴井先生



7-3病棟の脳神経外科との合同納涼会

●横浜市立大学形成外科同門会総会（2024年9月21日）



青木先生



前川先生

2024年度同門会 同門会長のバトンが青木先生から前川先生へ引き継がれた。



2024年度同門会にて

懇親会にて

●神奈川症例検討会 主催（2024年11月9日）



鳥飼勝行先生の追悼セッション 各々の先生方が故人との関わりや思い出を御発表された（赤松教授、大久保教授、前川教授、大村准教授、光藤教授、鈴木教授、武田教授、長西先生、木島先生）。



一般演題座長
三木先生、玉野井先生。



追悼セッションの座長を務めて頂いた前川二郎名誉教授、武田啓教授。

受付をしている館井先生、松本先生、川端先生、飯塚先生（左から）。



神奈川症例検討会 懇親会にて

● 年末を迎えて



病棟忘年会にて



林教授賞を獲得した看護師さんに渡す林先生。



病棟・脳外科の先生方と



旦那さんの急な転勤で、惜しまれながら退職となった医局秘書の小檜山さん大変な時を支えて下さりました。



● 横浜形成外科フォーラム（2025年2月15日）



横浜形成外科フォーラムでは北海道大学主任教授 山本侑平先生に素晴らしいご講演を頂きました。



会に参加する先生たち



左から 小久保先生、林教授、山本教授、前川名誉教授、北山先生



横浜形成外科フォーラム

● 年度末を迎えて



長年、頭頸部再建とリンパ診療を支えた北山晋也先生が退職



富山大学からの笹井先生は優秀でした

近況報告



目黒本町MJクリニック

院長 前川二郎

東京都目黒区目黒本町 5-25-5

電話：03-3792-6273



<https://meguro-mj.com/>

本年5月に東京の目黒区の住宅街に「目黒本町MJクリニック」を開業しました。母が亡くなった後、98歳になる父が施設に移り、空き家となった実家をクリニックに改装することにしました。1階は受付と診療室兼手術室で、2階は処置室とスタッフルーム、院長室があります。地下には駐車場と浴室、ランドリー、倉庫があります。当院は基本的に私と常勤、非常勤の看護師さんの3人体制ですが、少人数でもしっかりパフォーマンスを発揮できるよう、コンパクトで機能的な造りになっています。例えば、1階の診療室兼手術室は診療チェアがそのままクライニングしてフラットな手術ベッドになり、局麻の手術を行うことができます。診察デスクは設置せず、可動式のテーブルにノートパソコンを置き、カルテ入力を行うことができます。会計も可能な限りDX化し、電子カルテで必要書類を発行し、セミセルフレジのバーコードリーダーで直ちに会計を済ませることができます。また、患者さんをお待たせしないためにも、診療は予約制にし、オンライン診療にも対応しています。術後翌日の傷の状態を確認するのに遠方の方はオンライン診療を行っています。この様な環境なので、スタッフと息を合わせないと円滑に診療することができず、受付から会計までの動線を考えてクリニックづくりを行いました。手術用顕微鏡も設置しているので、ICG蛍光リンパ管造影によるリンパ管の検査からリンパ管静脈吻合術も診療室兼手術室で行っています。眼瞼下垂手術もこの顕微鏡を使って行っています。

開業してまだ3ヶ月、今まで診てきた患者さんや私の知り合いからの紹介で手術を受けに来る患者さんが多くを占めます。地域から少しずつ患者さんが集まっていますが、今さらながら、形成外科がどのような疾患を扱っているか、地域で周知されていない事を感じます。また、目黒区医師会に入会したので地域の開業の先生にも形成外科を知って頂くよう、少しずつ情報発信をしていこうと思っています。

大過なく教授職を全うできたことは関係の皆様に深く感謝しております。教授退任後をどの様に生きるか、多くは関連病院に就職、あるいは非常勤として勤務し、開業するケースは少ないと思います。長年、大学病院で高度な診療、教育、研究を行って、「やりきった」思いの私には地域医療にも関わりたい気持ちがあり、準備が大変でしたが多くの方の協力を得て開業に至ることができました。休診の合間には産業医としても活動しています。この様に、自分のペースで専門の手術をしながら、今までと違った診療をするのはとても楽しく、充実した日々を送っています。クリニックは東急目黒線の西小山駅から徒歩5分の所にあります。近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。



クリニック外観



診察室兼手術室



待合室



東急目黒線西小山駅から徒歩5分
武蔵小山駅から徒歩7分

開院2周年を迎えて



はむら皮ふ・形成外科・内科クリニック

院長 醍醐 佳代

東京都羽村市富士見平 2-10-1
電話：050-1808-4074



<https://hamura.clinic/>

同門の先生方、医局の先生方、ご無沙汰しております。

長年親しんだ横浜市大医局と横浜栄共済病院を離れ、東京西多摩にある羽村市で2023年6月に「はむら皮ふ・形成外科・内科クリニック」を開院しました。

西多摩地区の人口対医師数は全国平均の8割程度と医者不足なのですが、特に驚いたのはその医療圏全体（東京都の面積の26%、人口3%）で形成外科専門医は4人しかおらず、羽村市は私一人だったことです。形成外科のみならず、皮膚科専門医も私の知る限り羽村市には一人です。そのような医療圏ですので、勤務医時代にはみたことのない数の患者さんが来院し、皮膚科疾患も避けては通れず、後学のため皮膚科学会に加入しました。2年経過しだいたい慣れてきたとはいえまだまだ知らないことだらけで、外傷や手術希望の形成患者さんが来ると心底ほっとし、血がみなぎる感じとなります（笑）。



手術は腫瘍切除が多いですが、外来診療に割く時間が多く開院時間も短いため、レーザー以外の手術は月25-30件と多くはできません。自由診療は全体の収益の16%程度です。

医師の少ない医療圏ですが、隣町の市立青梅総合医療センターや公立福生病院、また車で30分はかかりますが、隣の医療圏の八王子や昭島、立川まで出ると紹介先にもそうは困らないという状況ですので、ある意味恵まれた環境ではあります。本当は形成外科的な手術をもっと増やしたいという気持ちもありますが、今は地域のニーズにこたえるのに精いっぱいというところです。

横浜の自宅からクリニックまでは60kmくらいとまあまあ離れていますが、今は自宅から通ったり、羽村の義母の家にとまったり、2拠点で過ごしています。

が、それでも結構楽しくやれているのは、来院する患者さんが皆喜んでくれることと、一緒に働くスタッフが今のところ良いからだろうと思います。スタッフは全員パート採用で、受付事務、看護師、看護助手が数名ずついます。最初の1年は例に洩れず職員問題で疲弊しましたが、経験も性格も様々なスタッフとうまくやるコツを自分なりに習得し、最近は大いぶ働きやすくなりました。参考までに。職員ファーストですね！（職員は先生ファーストと言います（笑）、患者ファーストはどこへ…）



- 早退希望時はどんなに忙しくても時間通り帰す
 - 自由に食べられるおかしと飲みものをきらさない
 - 毎日1-2分でミーティングをする
 - できる人に手当はつけるが上下関係はつくらない
 - やって当然のことでもお礼を言う
 - 無理なことは無理と早めに伝える
 - 週1回の内科診療（夫の登場）で空気を引き締める。
- ★最後になりましたが、気が向いたら奥多摩観光がてら遊びにきてください★

比類無きリンパ浮腫専門施設の建立



NACSクリニック リンパ浮腫センター北横浜

院長 長西裕樹

横浜市都筑区中川中央1-4-25

電話：045-910-5810



<https://nacs-lymphedema.jp/>

2003年4月から2023年7月末まで在局しておりました、長西です。2023年9月に横浜市都筑区の市営地下鉄センター北駅近くでリンパ浮腫専門クリニックを開業させて頂きました。現在3年目を迎え、いくつか披露できるお話も出来ましたので、近況報告致します。

クリニック名の由来は、「Natural Appearance Commitment Surgical Clinic」です。Commitmentの意味が多様なのですぐには腹落ちしないでしょうが、「自然な見た目について頑張る外科系クリニック」とご理解ください。自然な外見を目指して努力するのが形成外科医の本分ですが、「形成」や「plastic」ではその理念は表現できないのが気になり、納得できる造語を捻り出しました。日本の保険診療では外見の改善に拘って手間暇を費やしても報酬は増えないため、術の質が落ちることを許容して時間短縮し、手術件数を増やし、量を誇示して新患を獲得しようというビジネススタイルに陥りがちです。初心を忘れないように自戒も念も込められています。

クリニックの理念は以下の3つです。

- ① 治療と診断の両面で、病院に比肩する能力を確保する
- ② より頑張る患者には、より高度な治療を提供する
- ③ より頑張る医療者が、より高く評価される場を整備する

それらを実現するためには、相応の設備と人員が必要です。まず優先したのは、長西流の治療法（LVA+LS）を信じて頑張っている患者さんで、治療途中の方々が行き場を失わない様に、開業当初から全身麻酔手術室と同一棟内の宿泊施設を整えました。1年半の経営実績に基づいて追加融資を得て、2025年7月12日ちょうど50歳の誕生日にSPECT/CTを設置しました。クリニックでの保有は検診クリニックを除くと日本初です（世界で初めてLVAでOCTを活用したのも43歳の誕生日でした）。人員に関して、最初の2年でリンパ浮腫診療に慣れた医師と看護師と医療事務員を育成し、現在はまだ非常勤ですが、RI管理に慣れた放射線技師、脈管USに慣れた臨床検査技師、リンパ浮腫セラピストを揃えました。それらの人員と設備が全営業日にリンパ浮腫患者のためには稼働し、コンビニエンスも提供する施設は他に類を見ないでしょう。



スペクトCT



手術室



2024年末、箱根駅伝平塚中継所
三原先生&原先生と

それらの努力の甲斐も有ってか、南部病院で診ていた患者の8割以上は移って来てくれて、LVA+LS後の長期フォローで新たな知見が続々と得られています。新規患者も毎日1人はお越しになっており、南部病院では遭遇しなかった状態の患者を診る機会も増え、リンパ外科医としての幅が広がっています。LVAの件数は150→150件/年と維持しています。手術時間の融通が利くためにLVAの数は450→550吻合/年に増え、手術1件の質が向上しています。+LSの件数は、営業形態が無床診療所で全身麻酔→ホテルに宿泊して毎日通院なので患者負担額が増えた結果、80→30件/年に減りましたが、患者層が変わったために自然とwin-winの関係になっていて、理念②③にも適っていると感じています。

開業して私自身がどう変わったか？考えてみると、外形的には医者に加えて経営者という役割が増えたことでしょうか。経営人としての才覚が足りなさを自覚させられる日々は続くでしょう。でも丸2年経った今、内面的に感じているのは、手術棒が空いていることを喜べる気持ちが芽生えたことです。勤務医時代は任された手術棒を何としても埋めるのが職務だという使命感に縛られていました。開業1年目は経営状況が見通せなかったために4~5件/週詰め込んだりもしましたが、手術の量と質を保つには自分の健康が害されること事が分かりました。今では毎週4棒のうち1棒開いているぐらいが丁度良いと考えるようになりました。少し急いでいる患者も納得して待っていることを示しており、とても急いでいる患者さんを割り込ませる余裕も残っていて、私個人の余暇にもなっています。余暇 = scholeが語源となって scholar = 学者となった所以を体感しています。

経営者として文字通り青二才に過ぎない身ではありますが、前例のない開業の苦難を乗り越えられたのは、一偏に在局20年4か月間に色々とお鞭撻下さった先輩後輩のお陰であり、この場を借りて御礼を申し上げます。また、私流のリンパ浮腫診療の需要はもう少し有りそうですので、事業の継続と拡大を図っており、同門の縁が良い形で結ばれることを願っております。今後ともよろしく願いいたします。

近況報告



青木形成外科

副院長 北山晋也

藤沢市湘南台 2-10-7-3F
電話：0466-41-1360



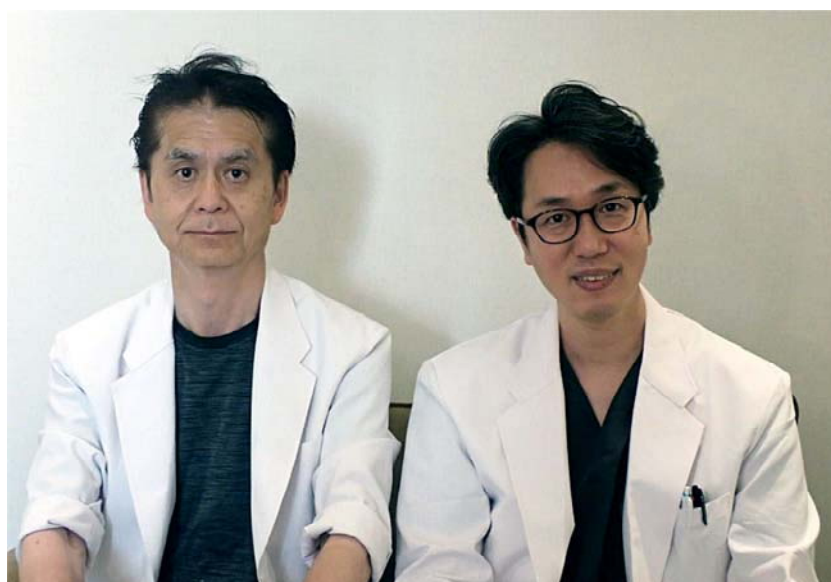
<https://aokikeisei.com/>

私は平成17年に横浜市立大学を卒業し、平成19年に入局しました。以後大学病院や関連病院で勤務し、特に附属病院（福浦）には合計で10年近く在籍しておりましたが、昨年退局し、2025年4月より医局OBである青木文彦先生のもと、湘南台青木形成外科クリニックで勤務しております。

当クリニックは湘南台駅徒歩3分とアクセスがよく、青木先生の長年の地域医療へのご尽力により地域内外の方々から広く認知されているため、毎日多くの患者さんが来院されます。診療内容は一般形成外科を中心として、レーザー治療や爪矯正など一部自費診療も含め幅広く行っています。特に爪矯正は国内でも有数の症例数があり、超弾性ワイヤーを使用した治療を数多く行っています。

私が医局で今まで培った知識や経験が活かせる領域もありますが、新しく勉強しなければいけない領域も多く、新しい環境と領域に適応すべく奮闘する毎日です。青木先生はじめクリニックのスタッフは皆さんとても良い方ばかりで、恵まれた環境で勤務できていることに感謝しています。

新しい生活が始まったばかりでまだまだこれから、といった状況ですが、より良い地域医療を提供できるように精進する所存でおります。皆さま今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



近況報告



えりこ形成外科クリニック

院長 開田 恵理子

東京都羽村市富士見平 2-10-1
電話：050-1808-4074



<https://www.eri-cl.jp/>

2024年7月に開業いたしました。

伊勢佐木長者町・関内・日ノ出町駅から徒歩圏、鎌倉街道沿いにあり、目の前はバス停の好立地です。健康に欠かせないビタミンCをイメージし、レモンがモチーフのロゴマークにしました。

6人の子供を抱えながら人生最大の挫折には勇気が要りましたが、趣味のガーデニングで育てた花の写真を額にして、自宅のようにくつろげる気分で過ごしてもらいたいと思っています。

患者層は地元住民以外に周辺企業や外国人など、老若男女さまざまです。毎日の出会いを楽しみにそして大切にしています。

診察室・手術室・レーザー室、計6部屋を同線よく配置し、どうやったら効率よく動けるかを工夫する日々です。予約外を断らない、60分以上お待たせしない、小手術は当日中に行う、を目標に（なるべくですが…）、毎日挑戦しています。

眼瞼下垂や腋臭症手術などは、午前診療の最後や、大垣先生に診療をしてもらっている間にしています。相談できる同門の先生方がいることはとても有難いことだと、改めて感じる日々です。これからもどうぞよろしくお願い致します。



一緒に頑張ってくれる
スタッフは大事な宝です。

生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
横浜市指定難病医療機関
下肢創傷管理料施設基準



	AM	PM
月	開田	開田
火	開田	-
水	開田 大垣	開田 大垣
木	開田	開田
金	大垣	-
土	開田	-
日祝	-	-

近況報告



R形成外科皮膚科クリニック

院長 梅田 龍

横浜市西区みなとみらい4-6-2
みなとみらいグランドセントラルテラス1階
電話：045-264-7944



<https://r-mm.clinic/>

平成27年卒の梅田龍と申します。私の父は医局こそ違いますが形成外科出身で、専門医取得後皮膚科を独学で学び、地元で形成外科・皮膚科で開業をしております。そんな父の姿に憧れ、小学校時代より漠然と医師になりたいと考えておりました。

研修医の頃は外科分野に興味があり、その中でも消化器外科に惹かれていたのですが、傷に対する考え方をしっかりと学ぼうと思い、2年目の進路決めの直前に形成外科の研修をしました。ある日センター病院での遊離での乳房再建の手術を見て衝撃を受けた事を今でも記憶しております。形成外科医局の雰囲気の良さもあり、その翌週には形成外科へ入局することに決めました。

専門医を取った後は、患者様の肌の悩みすべてにアプローチできるようになりたいと考え、週末に父のクリニックで皮膚科を学びつつ、大学病院などで形成外科医としての研鑽に励んで参りました。退局後は県内の皮膚科で常勤勤務をしつつ、都内で美容皮膚科・外科を学んでおりました。そんな中ご縁がありまして、もともと馴染みもあり、好きな土地でもあるみなとみらいで開業するに至りました。

2025年4月2日に開業し、数か月が経ち、ようやく地域の住人やオフィスワーカーの方々からの認知もされるようになってきたかなと思っております。地域に根差したクリニックを目指して日々精進する次第です。若輩者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



横浜市立大学附属病院

【スタッフ】

主任教授：林 礼人
 助 教：森 裕晃、三木 亭人、
 安藤 由茉、大久保亜貴
 専 攻 医：松本 優衣、馬場英理子、
 大坪 翔、飯塚 光輝、
 竹林 文彦、山腰 彩綺
 大学院生：川端 智貴



【施設紹介】

横浜市立大学附属病院形成外科は、先天性奇形、外傷性変形、腫瘍切除後の再建など、幅広い形成外科領域における高度医療を提供しています。顔面神経麻痺再建や血管腫・血管奇形、皮膚悪性腫瘍、巨大母斑といった皮膚軟部腫瘍の治療に注力し、リンパ浮腫治療の実績も継承しています。レーザー治療は日本レーザー医学会に指導施設の認定を受け、塞栓・硬化療法といった血管内治療、高難度新規医療技術としての角膜知覚再建や新規薬物療法の治験遂行など、新たな治療法の開発にも積極的に取り組んでいます。一方、頭頸部再建を中心に、乳房再建や肝動脈再建など様々な診療科に対する先進的な再建手術を遂行し、チーム医療の充実に貢献しています。診療はチーム制とし、個々の患者に最適化された治療プランを提供しています。また、地域医療機関と密接な連携を図り、円滑な診療体制を構築しています。基礎研究・教育活動にも積極的に取り組み、次世代の医療発展と人材育成に貢献しています。

(文責：三木亭人 / 林 礼人)

【2024年度 疾患分類別手術件数】

	入 院	外 来	計
全身麻酔での手技数	520	0	520
腰麻・伝達麻酔での手技数	6	8	14
局所麻酔・その他の手技数	65	293	358
入院または全身麻酔の手技数計：591			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：301			
合計係数：741.5			

疾患大分類手技数	入 院			外 来			計
	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	
外傷	37	1	4		4	32	78
先天奇形	37		2			6	43
腫瘍	254		23			126	403
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	6					8	14
難治性潰瘍	49	5	9			7	70
炎症・変性疾患	92		2		4	4	102
美容（手術）	1						1
その他	13		27			9	49
Extraレーザー治療	31					101	132

横浜市立大学附属市民総合医療センター

〒232-0024 神奈川県横浜市南区浦舟町4-57

TEL：045-261-5656

【スタッフ】

小久保 健一
 室田 悠美子
 藤原 文麗
 大井 皓介
 廣江 謙信
 井藤 美紅
 東舘 佳奈



【施設紹介】

当院は1871年西洋式病院として横浜に設立後、十全医院、横浜十全医院、横浜市立医学専門学校附属十全医院、横浜医科大学附属病院、横浜市立大学附属病院、横浜市立大学医学部附属浦舟病院、横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター、と名称を変え、現在横浜市立大学附属市民総合医療センターとなっております。浦舟町に当院が移転してきたのは1926年（大正15年）であり、2000年（平成12年）に現在の建物での診療が開始されました。

形成外科においては、2000年に青木文彦先生が部長になり、以降、鳥飼勝行先生、佐武利彦先生、小池智之先生を経て、2023年より小久保健一が部長をしております。

当科では、眼形成、乳房、手外科・頭頸部再建の3本柱で成り立っており、これに加えて救命救急センターとの連携をとっています。今後バランスは変わる事はあるかもしれませんが、しばらく現在の体制を維持していく予定です。
 （文責：小久保健一）

【2024年 年間の麻酔別及び疾患大分類別手術手技数】 集計期間 2024年1月1日～2024年12月31日

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	442	3	445
腰麻・伝達麻酔での手技数	1		1
局所麻酔・その他の手技数	123	238	361
入院または全身麻酔の手技数計：569			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：238			
合計係数：688			

疾患分類	入院			外来			計
	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	
外傷	178		5			23	206
先天奇形	28		6			6	40
腫瘍	137		21	3		159	320
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	18		2			26	46
難治性潰瘍	42	1	1			3	47
炎症・変性疾患	29		8			4	41
美容（手術）	4						4
その他	6		80			16	102
Extraレーザー						1	1

横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター 形成外科チーム

【2025年度スタッフ】

- 黒柳 美里 （形成外科と救急医学の両教室に所属）
中野 生順 （形成外科学教室から出向）
榮福 和希 （形成外科学教室から出向）

【施設紹介】

高度救命救急センターの『高度』は、救命救急センターで対応する疾患に加えて、①広範囲熱傷 ②切断肢・指 ③急性中毒に対しても対応できることを示し、神奈川県内には、当院（熱傷専門医1名）と東海大学医学部附属病院（熱傷専門医4名）の2施設にしかありません。当院高度救命救急センターの形成外科チームは、『高度』に求められる①と②の診療を支えています。さらに、当センターは横浜市の重症外傷センターに指定されており、重症四肢外傷や顔面外傷の診療も担当しています。

ただし、本来は24時間対応が求められる施設ですが、形成外科専門医不足と救急科業務分担増加により形成外科関連の急患対応できない日時が増えております。

<高度救命救急センター 診療体制>

病床数：EICU 12床、SDU 8床、一般病棟 27床

- ① ICU/SDUグループ：救急科（集中治療医）、循環器内科、精神科
② 後方病棟・初療グループ：救急科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科

*2025年度より診療体制が変更（①②の2グループ制）

⇒ 後方病棟は各科主治医制、3次初療は形成外科が所属する②が対応

【主な対応症例】

- 広範囲熱傷などの重症熱傷
手の重症外傷（切断指・肢含む）
顔面外傷（顔面骨骨折、挫滅創など）
皮膚軟部組織損傷（開放骨折・デグロービング損傷など）
整形・脳外・外科との合同手術症例 など

（文責：黒柳美里）

関連施設報告

地方独立行政法人神奈川県立病院機構

神奈川県立子ども医療センター 形成外科

神奈川県立子ども医療センターは昭和45年に設置された小児専門病院で、施設内に小学校から高校までを併設するユニークな施設です。平成18年1月に新棟の運用開始となり、現在の体制（子ども専門病院329床、障害児入所施設90床）になりました。発足当時の診療は2名体制でしたが、手術件数と新患者が増加したことに伴い、平成28年度より常勤医の増員が認められ4名体制になりました。また、県外からの新患者の増加に伴い手術枠は4日/週で全身麻酔手術400-430件/年になりました。唇顎口蓋裂における術前矯正治療の進歩とともに一度に口唇と顎あるいは口唇・顎・口蓋手術を行えるようになり、実際の手術術式としてはさらに50-70件増える計算です。他にも頭蓋縫合早期癒合症・小耳症などの頭蓋顎顔面疾患が多く、唇顎口蓋裂の出生前診断やセカンドオピニオンが増加しています。また、平成27年からは、再生医療新法下に「唇顎口蓋裂に対する多血小板血漿/フィブリン移植による顎裂骨欠損部への移植術」が厚生労働省より認可され行っています。

【スタッフ】

常勤医：4名

非常勤医 形成外科医：1名、矯正歯科医：2名、口腔外科医：1名

非常勤基礎研究員：2名 非常勤臨床研究員 形成外科医：1名

- ・ 神奈川県立子ども医療センター 形成外科 HP

<http://www.kodomo-keiseigeka.kanagawa.jp/index.html>

- ・ 地方独立行政法人神奈川県立病院機構

神奈川県立子ども医療センター 形成外科 HP

<http://kanagawa-pho.jp/osirase/byouin/kodomo/department/plastic.html>

(文責：小林真司)

横浜労災病院

【スタッフ】

部長：山本 康（平成6年）専門医
 副部長：矢吹 雄一郎（平成18年）専門医
 専修医：澤井 祐美加（平成30年）専門医



横浜市営地下鉄新横浜駅の北側出口（10番）をエスカレーターに乗って出て徒歩7分、緑あふれる新横浜公園を抜けて、ススキの生えた鶴見川支流の小川にかかる橋を渡るとすぐに横浜労災病院があります。平成3年に開設し、外観は薄汚れてしまった病院ですが、地域の方々からの信頼は厚く、毎日受診する患者様であふれかえっています。

私が平成10年に仲町台に転居して、まだ大学やこども医療センターへ車通勤していたころ、労災病院の脇を通り過ぎるたびに、「この病院に勤務できればいいのになあ」と家族とよく話していました。まだその頃、横浜労災病院は他の大学医局に属した病院だったため、ここで務めることができるなんて普通ならばただの夢物語でしかありませんでした。ところが、念じてみるものと言いますか、瓢箪から駒と言いますか、ひょんなことで医局に関連病院の話が舞い込み、あれよあれよという間に私に白羽の矢が立ち、形成外科部長に就任。当初は内山祐美先生とたった二人体制で、毎日の救急オンコールに加えて、月一ペースのDIEPによる乳房再建をはじめとした遊離皮弁再建までも躊躇なく行うような無謀な激務で奔走し、気が付けばもうすでに勤務して早13年目を過ぎようとしています。

内山先生、あの時は本当にごめんなさい（謝）。

（プチ施設紹介）

矢吹先生が赴任されてから、小耳症やリンパ浮腫の手術が開始され、更に診療の幅が広がり、他科の再建手術依頼も増えてきております。また近隣のクリニックにご挨拶にお伺いさせていただく機会をいただいたことで、新患数も増え、手術数も着実に右肩上がりになっています。

スタッフについては、林教授や医局からのご理解・ご配慮もいただき、専門医3人という充実した診療体制で行うことができしております。（文責：山本 康）

【2024年度 疾患分類別手術件数】

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	229		229
腰麻・伝達麻酔での手技数	2	3	5
局所麻酔・その他での手技数	95	386	481
A) 入院または全身麻酔の手技数計：326			
B) 外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：389			
合計係数 (A+B/2)：520.5			

疾患分類	入院			外来			計
	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	
外傷	43		4			1	48
先天異常	26		4			8	38
腫瘍	118	1	34		2	344	499
癬痕・拘縮・ケロイド	3		3		1	13	20
難治性潰瘍	15	1	15			2	33
炎症・変性疾患	21		6			9	36
美容（手術）							
その他	3		29			9	41
レーザー							

関東労災病院

【スタッフ】

部長：萩野 浩希

医師：佐治 詩保子

今橋 優里花

(2025年4月1日現在)



【施設紹介】

今年の11月に当院の医療情報システムが更新になります。形成外科部長と医療情報部長を兼任しており、その準備でストレスのかかる日々を過ごしています。

システムの更新は、8年ぶり2回目になります。今回はベンダーが変わらないので前回より多少楽ですが、それでも半導体及び物価の上昇、円安の影響で前回より費用は、1.5倍上がっており、部門システムを含めると二桁億の負担になります。できるだけ今のシステムを延命して使用してきましたが、ハード面の劣化には耐えきれずpc類やサーバーが限界になりました。7～8年毎にシステム更新があると病院経営には大きなダメージとなり赤字が増えるのに納得します。今後、ハードの更新をどのように分散できるか、病院経営の観点からも次期システムの設計が重要です。電子カルテは、クラウド化して部門システムは仮想基盤上に設置するなど工夫しています。仕様書にない問題点や、想定していないことが次々と起こり、予算制限の中で格闘しています。

(文責：萩野浩希)

【2024年度 疾患分類別手術件数】

集計期間 2024年1月1日～2024年12月31日

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	106		106
腰麻・伝達麻酔での手技数	13	2	15
局所麻酔・その他での手技数	247	775	1022
入院または全身麻酔の手技数計：366			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：777			
合計係数：754.5			

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	
外傷	23	1	22		2	129	177
先天異常	8		2			1	11
腫瘍	56		99			368	523
癩痕・癩痕拘縮・ケロイド	5		4			10	19
難治性潰瘍	6	8	26			6	46
炎症・変性疾患	6	3	21			19	49
美容（手術）							
その他	1	1	73			6	81
Extraレーザー治療	1					236	237

横浜栄共済病院

〒247-8581 神奈川県横浜市栄区桂町132番地
TEL：045-891-2171（代表）

【スタッフ】

部長：岩瀬 わかな（平成14年卒）
医師：池田 浩明（平成30年卒）
医師：大西 あとり（令和5年卒）



【施設紹介】

当院は、1939年に旧海軍燃料研究所で働く職員・家族に向けた職域病院として開設されました。戦後、国家公務員共済組合連合会に運営が引き継がれ、地域医療の中核となる病院として医療提供を行なっています。2019年に病院再整備事業が完了し、快適な療養環境と質の高い医療を提供できるよう努めています。

当院形成外科は、前任の醍醐佳代先生が2023年3月までの18年間にわたり部長を務められ、当科の発展に寄与なさいました。2023年4月からは岩瀬が部長職を引き継ぎ、現在に至ります。2024年度は常勤2名への減員となり、マンパワー不足の厳しい年となりましたが、黙々と着実に仕事をこなす池田先生に支えられ、なんとか無事に1年間を終えることができました。また、大学から週2回の非常勤医師派遣をして頂いたり、多数の研修医が当科研修を選択してくれたことに大いに助けられた年でした。今年度入局して当科常勤医師となった大西あとり先生は、当院で初期研修を修了した先生です。2025年度は上記3人体制で診療を行なっています。

栄区は横浜市の中でも特に高齢化が進んだ地域であるため、元気なお年寄りが数多く来院される一方で、小児・若年者の症例は少なくなっています。手術対象疾患の内訳としては、良性・悪性腫瘍、外傷、難治性潰瘍、眼瞼下垂などが多く、他科との連携を要する乳房再建、創傷治癒遅延・SSIへの介入なども増えています。また、レーザー治療（取り扱い機器：Ruby LASER、CO2フラクショナルレーザー、BBL/Skintite）やケミカルピーリング・イオン導入などのアンチエイジング治療にも力を入れています。

（文責：岩瀬わかな）

【2024年度 疾患分類別診療実績】

疾患区分	外傷	先天異常	腫瘍	瘢痕 ケロイド	難治性潰瘍	炎症 変性疾患	その他	レーザー	合計
全麻	15	6	31	0	14	0	7	0	73
局麻など	81	6	365	14	20	19	88	189	782



済生会横浜市南部病院

〒234-0054 神奈川県横浜市港南区
港南台3丁目2番10号

JR京浜東北線 港南台駅より徒歩3分



【スタッフ】

医長：奥山 智輝

済生会横浜市南部病院
マスコットキャラクター
「ホスピーちゃん」

【施設紹介】

南部病院における形成外科診療は開院当初（1983年6月）から西條正城先生が非常勤医として立ち上げになり20年以上診療を継続されておりました。2009年より佐武利彦先生が非常勤体制での形成外科診療を再開され、2012年より常勤体制となり黄聖琥先生が1人医長として着任されました。2013年4月から長西裕樹先生が赴任し、2017年には常勤医3名体制まで診療を拡大しました。

長西先生の開業に伴って南部病院を退職された2023年8月以降は、安藤由菜先生が診療科長となり2名体制となりました。長西先生の技術を引き継いだ安藤先生が様々な調整をして2名体制を整えた矢先に……

医局の懐事情により2025年4月から常勤医1人体制となってしまい、規模がさらに縮小となってしまいました。

医局からの非常勤医師と協力しながら、皮膚良性・悪性腫瘍を主な診療とし、外傷、乳房再建、眼瞼などを可能な限り対応している状況です。

現在、南部病院の経営状況は病院移転が危ぶまれるほどの危機的状況に陥っていますが、微力ながら尽力してまいり所存です。引き続き、ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

（文責：奥山智輝）

【2024年度 疾患分類別手技件数】

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	203		203
腰麻・伝達麻酔での手技数	2		2
局所麻酔・その他の手技数	84	262	346
A) 入院または全身麻酔の手技数計：289			
B) 外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：262			
合計係数：420			

疾患分類	入院			外来			計
	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	
外傷	31		4			39	74
先天異常	4		3			10	17
腫瘍	74		22			143	239
癬痕・拘縮・ケロイド	2		3			10	15
難治性潰瘍	29	2	8			13	52
炎症・変性疾患	63		14			35	112
美容（手術）							
その他			30			12	42
レーザー							

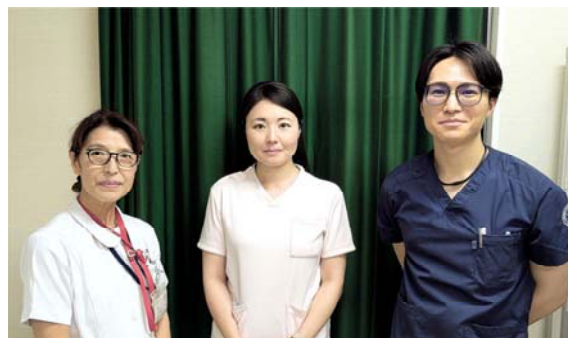
藤 沢 市 民 病 院

【スタッフ】

医長：藤井 晶子

医師：中島 悠晴

非常勤医師：飯塚 光輝



当院は昭和46年（1971年）10月に330床、18診療科で開院しました。形成外科は開院当初より開設しており、2025年現在で54年目となります。医局関連病院の中でも比較的古くからある施設と言えるでしょう。開設より2003年度までは非常勤施設でしたが、2004年度から常勤形成外科医の勤務する施設となりました。

現在は常勤2名（うち形成外科専門医1名）、及び非常勤医師1名の体制で診療を行っています。診療の中心となる分野は眼形成眼窩外科ですが、3次救急の救命センターを要しており地域がん診療連携拠点病院でもあるため、顔面骨骨折・四肢外傷後の皮膚軟部組織欠損などの外傷や、腫瘍切除後の再建に関しても他科と連携した治療を行っています。

再建で最も多いのは乳腺外科との乳房再建ですが（乳房オンコプラステックサージャリー学会の認定施設となっており、人工物再建を行っています）、その他産婦人科・歯科口腔外科・耳鼻咽喉科・消化器外科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・脳神経外科と、様々な科と共に手術を行ってきました。一部の皮弁再建に関しては当院のマンパワーだけでは対応が難しく、附属病院やセンター病院、横浜労災病院など他関連施設からの応援・ご指導をいただきながら行っています。いつも医局の皆様のご協力に大変感謝しております。

（文責：藤井晶子）

【2024年度 疾患分類別手技件数】

	入 院	外 来	計
全身麻酔での手技数	66		66
腰麻・伝達麻酔での手技数			
局所麻酔・その他での手技数	37	181	218
入院または全身麻酔の手技数計：103			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：181			
合計係数：193.5			

疾患分類	入 院			外 来			計
	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	
外傷	13		1			2	16
先天異常	5		2			9	16
腫瘍	37		3			96	136
瘢痕・拘縮・ケロイド	2		2			5	9
難治性潰瘍	4					1	5
炎症・変性疾患	5		3			20	28
美容（手術）							
その他			26			48	74
レーザー							

藤沢湘南台病院

在りし日の2号館と解体の様子（筆者撮影）

思い出のある先生方も多いと思いますが、老朽化により解体されました。併せてライフメディカルフィットネス（ジム）やケアセンター（老健）が閉鎖され、前者に医局や院長室、後者に事務やコメディカルスタッフ控室などの機能がそれぞれ移転しています。

【スタッフ】

担当部長：篠木 美穂
 非常勤：前川 二郎
 藤原 文麗



【施設紹介】

藤沢・湘南台という二つの地名を冠した当院ですが、最寄り駅は湘南台ではなく長後駅、そこから歩くこと10分程度のところにあります。藤沢市北部に位置し、ほぼ大和市と言って差し支えありません。綾瀬市や横浜市泉区などから来られる患者さんも多い印象です。

昭和7年（1932）開院で、もうそろそろ100周年を迎えます。令和7年（2025）には旧棟2号館の解体が行われ、新病棟建設に向け進んでいく予定です。

比較的珍しい個人開設の病院ながらも形成外科との歴史は意外にも古く、黎明期は昭和63年（1988）まで遡ります。現同門会会長である青木先生が当時の院長から非常勤の依頼を受けたところから始まり、数代の非常勤時代を経て平成12年（2000）に常勤化され、初代部長に山本康先生が就任されました。

私は令和3年（2021）からお世話になっておりますが、時代の流れで翌年の令和4年（2022）から一人部長となりました。しかしながら、医局より非常勤枠の派遣をいただいている他、引き続き前川先生にもリンパ浮腫専門外来を担当していただける運びとなり、大変心強く感じております。

院内は古き良き気風で、スタッフの皆さんは非常に好意的に接して下さいます。これも歴代先輩方のご尽力の賜物と深く感謝しております。今後もたくさんの伸びしろと共に次世代につないでいけたら幸いです。

（文責：篠木美穂）

【2024年度 疾患分類別手技件数】

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	10		10
腰麻・伝達麻酔での手技数			
局所麻酔・その他での手技数	24	154	178
入院または全身麻酔の手技数計：34			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：154			
合計係数：111			

疾患分類	入院			外来			計
	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	
外傷						5	5
先天異常	1					4	5
腫瘍	9		4			116	129
瘢痕・拘縮・ケロイド							
難治性潰瘍						1	1
炎症・変性疾患			1			6	7
美容（手術）							
その他			19			5	24
レーザー						17	17

茅ヶ崎市立病院

住所：〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村5-15-1

電話：0467-52-1111（代表）

Website：https://hosp.city.chigasaki.kanagawa.jp



茅ヶ崎市 公式キャラクター
「えぼし磨, ミーナ」

【スタッフ】

三上 太郎

【施設紹介】

当病院の歴史は古いのですが、形成外科は2019年4月に開設されました。都合、COVID-19の時代を経て、7年目に入っています。開設当初から相も変わらずわたくしが1人で勤務しております。

2023年の春以後、漸く「コロナ前」の状態に戻るようになりましたが、休日祝日の救急外来外科系日直医を担当していると受診患者数は「減ったな」と実感しています。良くも悪くも病院にちょっとしたことで受診しない習慣になったのでしょうか。小児若年者も高齢者も外傷の受診者は、形成外科の日常診療でも減った印象があります。

その他の領域の患者さんについては著変ないのですが、いわゆる「とりもの系」はだいぶ育ててから来院される方が多い状況です（大抵、全身麻酔になってしまいます）。

前回ご紹介した「健康なお年寄り」、「サーファー」のかたがたの、自転車転倒やサーフボードによる外傷は明らかにこの年で減りました。その一方、料理や趣味による「ちょっとした手の怪我（多くは縫合が必要）」や「不注意からくる熱湯熱傷」は増えている模様です。理由はよく分かりません。

立地条件からくる、“けが”の子供の患者数（引き受けてくれる周辺のクリニックは少なめです）は増えも減りもしませんが、日本創傷外科学会からお達しの「ナオルンシール」は既に1200枚を渡しおえました（A-oneの当該シールが一袋で240枚分です。当院開設から既に6袋目に入りました）。

これとは別に、富山大学医学部形成外科（佐武利彦教授）とのつながりから、同大学が管理する「双六診療所」へのボランティア診療に参加いたしました（2025年8月6～9日）。20歳以上自分より若い方々4人との診療班でしたが、悪天候に見舞われて大変でした。往路では途中の鏡平山荘で予定外の一泊をしましたが、当日午後には秩父沢という小川のわたり橋が流されました。

復路についても豪雨到来の都合から一日早く切り上げ、正味二日程度の活動でしたが、5人の患者さんが受診されました。「滑落して危うく死にかけた」という方もあり、やはり登山は危険だなと実感しました（下山が大変で自分も死にかけました。予定とおりの下山を企図していたら下山出来なかったと推定します）。ちなみに、更に標高の高い位置に、香川大学と岡山大学が共同で運営する「三俣診療所」があります。他のメンバー4人が挨拶にうかがう登山の途中でクマに出くわしました。写真を見る限りでは小さめでしたが——。やはり、地方の公的病院で学究的な活動がしにくい点は残念ですが、機会をねらって手を広げていきたいと考えております。

（文責：三上太郎）

【2024年 年間の麻酔別及び疾患大分類別手術手技数】 集計期間 2024年1月1日～2024年12月31日

	入院	外来	計
全身麻酔での手技数	30		30
腰麻・伝達麻酔での手技数			
局所麻酔・その他での手技数	76	97	173
入院または全身麻酔の手技数計：106			
外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：97			
合計係数：154.5			

疾患分類	入院			外来			計
	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	全麻	腰麻・伝麻	局麻・その他	
外傷	2		3			41	46
先天異常	1					1	2
腫瘍	24		25			45	94
瘢痕・拘縮・ケロイド	1						1
難治性潰瘍	2						2
炎症・変性疾患			3			7	10
美容（手術）							
その他			45			3	48
レーザー							

新入教室員挨拶



井藤 美紅（いとう みく）

生まれも育ちも神奈川県で、幼い頃から家族が横浜市立大学附属病院に通院していたこともあり、身近で温かい病院として親しみを感じてきました。医師を志すにあたり、自分が育った地域に根差し、還元できる医師になりたいという思いから、当院での研鑽を希望いたしました。

私は「患者さんの痛みはどう寄り添うか」という問いを大切にしてきました。形成外科は疾患を治すだけでなく、外見や機能を整えることで心の痛みにまで寄り添える分野であり、それこそ自分の目指す医師像であると感じ、形成外科医を志望いたしました。

足りないところばかりの私ですが、これから一日でも早く力になれるよう努力して参ります。何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



大西 あとり（おおにし あとり）

横浜栄共済病院にて勤務させていただいております、専攻医1年目の大西あとりと申します。私は京都出身で、大学入学前までは京都から出たことのない人間でした。滋賀医科大学に進学し、学生生活を経て就職先を考えた時、今までの人生ずっと関西にいるなとふと思い、一度きりの人生折角なら一度は出てみようと思われ、初期研修先は横浜を選びました。学生時代から手技のある科を志望していたのもあり初期研修中も進路は外科系で考えていたのですが、2年目に形成外科をローテした際、多くの手技を経験させていただき日々の研修がとても楽しく、関西に戻るか悩んだ末横浜に残ることにしました。

まだまだ未熟者ではございますが、沢山のことを学ばせていただき精進して参りたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



落合 紗雪（おちあい さゆき）

鎌倉市出身で、順天堂大学卒業後、横須賀市立うわまち病院にて初期研修を修了いたしました。

医師3年目はイギリスで公衆衛生と寄生虫の勉強をしたり、スペインでスペイン語の勉強をしたりして過ごしました。寄生虫は見た目が可愛らしくて好きなのですが、形成外科も同じく目に見える点が魅力的であり、医師4年目から入局させていただき運びとなりました。

趣味は美術鑑賞です。中でも新版画の、アウトラインがはっきりしていてわかりやすいところが好きです。傷のアウトラインは残さない形成外科医となれるよう精進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



竹林 文彦（たけばやし ふみひこ）

初めまして、形成外科に入局しました竹林文彦と申します。神奈川県出身で、大学から北海道大学に進学しました。その後、生まれ故郷の小樽で初期研修を行い、北海道で後期研修を経て、このたびこちらに戻ってまいりました。趣味は旅行とサウナ、そしてランニングです。去年は北海道マラソンで42.195kmを完走し、達成感と筋肉痛の両方を味わいました。形だけでなく機能の回復にも携われる形成外科の魅力に惹かれ、この道を志しました。まだ学ぶことばかりですが、先輩方のご指導のもと、日々成長しながらチームの一員として貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



中島 悠晴（なかじま ゆうせい）

この度当医局に入局いたしました、中島悠晴と申します。大分県出身で幼少期から様々なスポーツに打ち込み、小学生時代にはソフトボールで全国大会準優勝を経験しました。母の病気をきっかけに医師を志し、浪人を経て福岡大学へ進学しました。ポリクリでマイクロの手術を拝見し、その繊細で高度な技術に強く惹かれ、私も挑戦したいと考えるようになりました。小田原市立病院、市大での初期研修を通じてその思いは一層強まり、この度入局を決意しました。趣味は筋トレですが、現在は育児中心の生活を送っております。まだ未熟ではございますが、専門性を高め、患者さんに信頼される医師を目指して精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



東館 佳奈（ひがしだて かな）

はじめまして、今年度入局させていただきました東館佳奈と申します。北海道で生まれ育ちましたが、大学から九州に移り宮崎大学を卒業しました。初期研修より神奈川県に参り、小田原市立病院で2年間研修いたしました。高校から大学までラグビー部のマネージャーをしており、元々は整形外科、とくにスポーツ分野に興味がありました。しかし、研修医として様々な科を回り、様々な症例や手技を経験させていただくなかで、形成外科ならではの繊細で高度な技術に魅力を感じ、形成外科を志しました。他の科の手術での閉創中に物足りなさを感じ、いよいよ形成外科を目指そうと決心がついたことを覚えています。

現在所属するセンター病院では、初期研修の市中病院と比較して、他科再建を含めより規模の大きい手術を学ぶことができ、貴重な経験をさせていただいております。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



山腰 彩綺（やまこし さき）

はじめまして、専攻医1年目の山腰彩綺と申します。現在は福浦にて勤務させていただいております。生まれ育ちは神奈川県横浜市ですが、青森県の弘前大学に進学し、その後東京北医療センターという病院で初期研修を行っていました。初期研修を終えて総合診療科の専攻医として勤務していましたが1年目の冬頃に形成外科への転科を決め、2025年3月に病院見学、その翌月に入局させていただきました。そのため、専門医プログラムにはまだ入っておらず実際は専攻医0年目なのですが、そんなイレギュラー入局にも関わらず受け入れてくださったことに感謝し日々取り組んでおります。

未熟な点が多くこれからもご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、着実に成長していけたらと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



森 裕晃（もり ひろあき）

慶應義塾大学形成外科から異動して参りました森裕晃です。北山先生の後任なのですが、横浜市立大学の先生方からは「救世主」とイジられております。

1986年に岐阜県の生まれで、2012年に慶應義塾大学医学部を卒業しました。

2019年より6年間静岡がんセンターへ勤務しており、再建・マイクロサージャリー分野が専門です。多くの再建外科医を育成することを当面の目標としています。

趣味はラーメン屋巡りですが、太ってきたため自転車通勤を始めました。年齢とともに頭髪が薄くなっていよいよやばいのでAGA治療を始めましたがどちらかと言うと体毛が濃くなってきました。欠点は胃腸が弱いことで、手術中であってもトイレに抜けることがあり申し訳ありません。ただし、基本的に再建手術は速攻で終わらせています。

今後とも宜しくよろしくお願い申し上げます。

林 礼人主任教授就任祝賀会報告



2025年1月12日（日曜日） ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 3階 ボールルーム



乾杯



記念品
贈呈



林 教授ご夫妻

御祝辞 & 御挨拶



順天堂大学 理事長
小川 秀興 先生



日本形成外科学会 理事長
貴志 和生 先生



韓国形成外科学会 理事長
Hak Chang 先生



横浜市立大学附属病院長
遠藤 格 先生



横浜市立大学形成外科
名誉教授
前川 二郎 先生



久留米大学形成外科・顎顔面外科
名誉教授
清川 兼輔 先生



横浜市立大学
医学部長
中島 淳 先生



横浜市立大学形成外科
前同門会長
青木 文彦 先生



林 礼人主任教授とご家族



横浜市立大学と順天堂大学 幹部の先生方と



ご来賓 形成外科 教授陣と林教授ご夫妻



小川秀興先生、高森建二先生とご家族



横浜市立大学の教授陣と林教授ご夫妻



横浜市立大学 教授陣と林教授ご夫妻



各大学形成外科 教授陣と林教授ご夫妻



各大学形成外科 教授陣と林教授ご夫妻



形成外科 同年代教授陣と林教授ご夫妻



形成外科 若手教授陣と林教授ご夫妻



関東形成外科 若手教授陣と林教授ご夫妻



関連施設 病院長の先生方と林教授ご夫妻



横浜市大形成外科 同門会幹部の先生方と

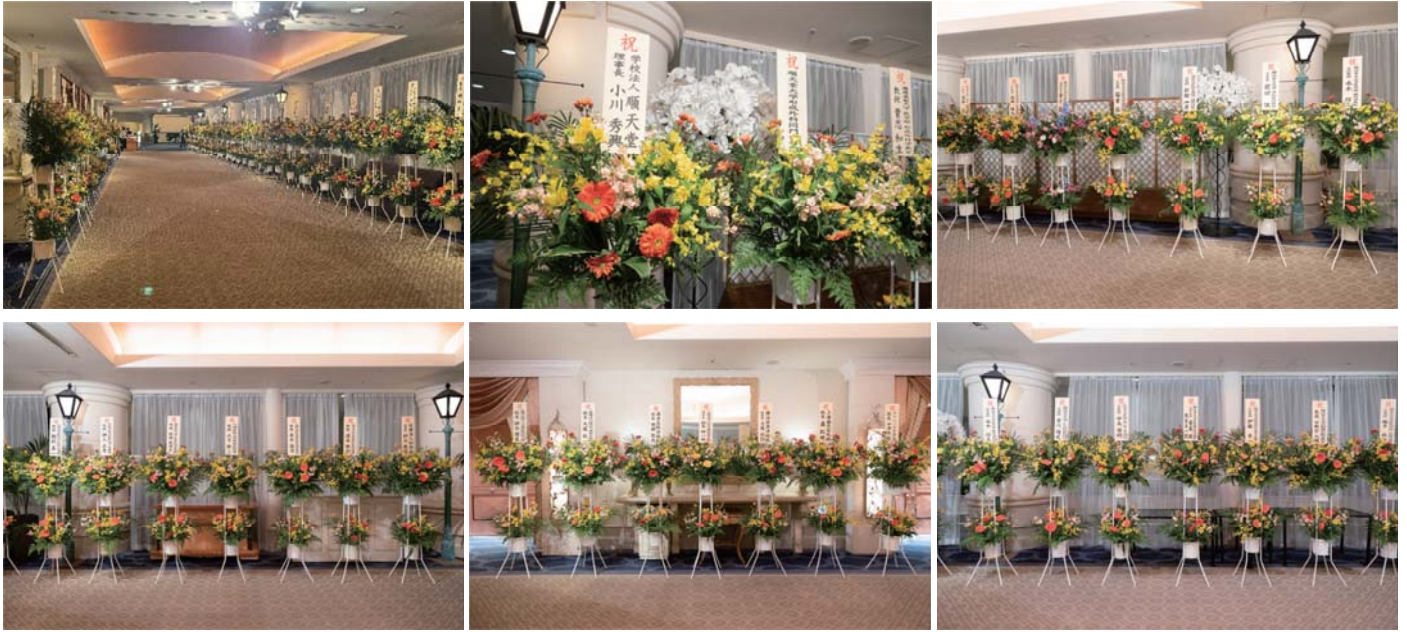


関連施設 病院長と施設長の先生方と



横浜市大形成外科 同門会の先生方と

御祝のお花



祝賀会の様子



久留米大学形成外科 名誉教授 清川 兼輔 先生からの御挨拶

順天堂大学理事長 小川秀興先生と林教授ご夫妻



林主任教授のご挨拶の様子

司会の小久保先生

医局長の三木先生



横浜市立大学 形成外科 医局員および同門会員の集合写真



出席者の全体集合写真

主任教授就任祝賀会を終えて

横浜市立大学医学部形成外科学講座

林 礼 人

この度、2025年1月12日にヨコハマインターコンチネンタルホテルにて主任教授就任祝賀会を開催して頂きました。昨年8月末に予定して頂いた際には、台風の直撃で延期を余儀なくされましたが、大変多くの方々から温かなお言葉や御配慮を頂き、今回、無事に開催の日を迎えることが出来ました。この日を迎えるにあたり、これ程天気が気になったことは無く、直前に一時雪マークの予報となった際には、正に背筋の凍る想いでした。しかし、御参加頂いた皆様のお力添えもあって、天候に恵まれ大変素晴らしい形で執り行って頂きました。

ご多忙の中、順天堂大学理事長 小川秀興先生、日本形成外科学会理事長 貴志和生先生、韓国形成外科学会理事長 Hak Chang先生、横浜市立大学附属病院院長 遠藤格先生、横浜市立大学医学部長 中島淳先生、日本形成外科学会第24代理事長 清川兼輔先生をはじめとするご来賓の先生方、並びに全国各地から大変多くの形成外科の先生方や関係者の方々にご臨席を賜りました。また、開催直前に体調を崩された横浜市立大学 近野真一理事長からは、心のこもったお手紙を頂戴いたしました。加えて、担当されたホテルの方々が驚かれるほどの数多くの祝花もお寄せいただき、忘れることのできないひとときとなりました。

ご来賓の先生方から頂戴したご祝辞は、大変な温かみと身に染み入るお言葉に溢れており、その一つ一つは、胸に深く刻まれ自身の宝として息づいています。これまで歩んできた道のりを振り返りつつ、これからの道しるべを頂いた、かけがえのない機会となりました。また、前川二郎前主任教授の乾杯のご発声並びに青木文彦前同門会長のご挨拶には、横浜市立大学形成外科への熱い思いと今後への期待が込められており、自らに課せられた重責と医局発展に向けた決意を新たにいたしました。

遠方よりも多くの先生方にご参加いただき、皆様からの心のこもったお言葉や温かな笑顔の数々には大きな活力を頂き、その後の歩みに確かな力を与えて頂いています。

会の最後の挨拶は、想いが溢れるあまり想定以上に長くなり、自身の未熟さを露呈する場面もありましたが、こうした経験も糧として今後も歩みを進めていけたらと思います。

本会の開催に際し、会を主催していただいた発起人の先生方並びに横浜市立大学形成外科同門会の皆様、とりわけ準備に奔走して下さった附属病院の北山先生、三木先生、奥山先生、秘書の遠藤さん、小檜山さん、司会を務めて下さった小久保先生に、心より厚く御礼申し上げます。また、ご参加と多大なるご支援を賜りました多くの先生方の温かなご厚情に、改めて深く感謝申し上げます。

横浜市立大学形成外科が今後一層の発展を遂げていける様、不断前新の想いで責務を全うし、しっかりと歩んでいけたらと思います。この度は、誠に有難うございました。

(林礼人主任教授就任祝賀会のご挨拶文は、特別寄稿としてP34～36に掲載しています。)

第39回日本眼窩疾患シンポジウム報告



2025年10月25日 土曜日 かながわ労働プラザ3階 多目的ホール

開会の挨拶



小久保 健一 先生

特別講演



林 礼人 先生

ランチョンセミナー



匂坂 正信 先生

次期会長の挨拶



恩田 秀寿 先生



二宮 龍之介 先生



長西 裕樹 先生



藤井 晶子 先生



矢吹 雄一郎 先生



権太 浩一 先生



清家 卓也 先生



河野 暉 先生



垣淵 正男 先生



座長の先生方



村上 正洋 先生
鈴木 茂伸 先生



末岡 健太郎 先生
後藤 浩 先生



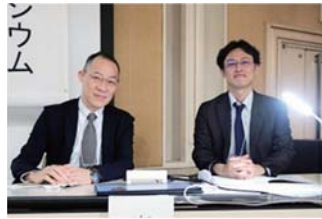
根本 裕次 先生
今川 幸宏 先生



渡辺 彰英 先生
張 大行 先生



辻 英貴 先生
高比良 雅之 先生



嘉岡 信忠 先生
林 憲吾 先生



垣淵 正男 先生



小久保 健一 先生

運営スタッフ



活発な討論



特別講演演者、眼窩疾患シンポジウム理事、座長

第39回日本眼窩疾患シンポジウム開催を終えて

横浜市立大学附属市民総合医療センター 形成外科

小久保 健 一

第39回日本眼窩疾患シンポジウムを2025年10月25日に横浜にて開催させていただきました。聖隷浜松病院眼形成眼窩外科の始祖でもある中村泰久先生が1986年に第1回を主催されて以来、39回の歴史を重ねる伝統ある会を担当させていただき、大変光栄に思っております。形成外科医としては酒井成身先生、嘉島信忠先生、石田有宏先生、村上正洋先生、垣淵正男先生に続く6人目の本シンポジウムの主催となりました。

今回のテーマは「好奇心の共有、学問への昇華」といたしました。日常診療や手術の中で生じる素朴な疑問や小さな工夫を互いに共有し、それを学問へと高めていく——そんな場にしたいという思いを込めました。発表内容はいずれも臨床現場から生まれた気づきに満ちており、改めて眼窩疾患分野の奥深さと広がりを感じることができました。

特別講演では、横浜市立大学形成外科主任教授の林礼人先生に「顔面神経麻痺のトータルマネジメント」についてご講演いただきました。静的・動的再建のみならず、角膜知覚再建にも及ぶ包括的な内容で、参加者一同大いに刺激を受けました。またランチオンセミナーでは、熊本の匂坂正信先生により、肝斑や下眼瞼バギーアイリッドに対するRFニードルを用いた最新の治療戦略をご紹介いただき、活発な討論が行われました。

開催準備にあたっては、想像以上の困難に直面しました。学会名義の銀行口座を開設するにも、複数行から断られるなど、初めての経験の連続でした。ポスターや封筒のデザイン作成、ウェブサイトの構築なども手探りで進める中、理事の先生方から多くの助言をいただき、支えられての開催となりました。また、企業協賛や演題募集、参加者の取りまとめなど、多くの先生方のご協力により実現できたことを深く感謝いたします。

当日は全国から多数の先生方にご参加いただき、終始和やかな雰囲気の中で活発な議論が交わされました。懇親会は横浜桜木町のイタリアン「ラテンダロッサ」で行い、世代や所属を超えた交流の場として大いに盛り上がりました。本シンポジウムの特色である「距離の近さ」を改めて実感するひとときでした。

最後に、本会の開催にあたりご支援を賜りました横浜市大形成外科のOBの先生方、俱進会、本シンポジウム理事の先生方、応援して下さった企業・開業医の皆様、当日運営をこなしてくれたセンター病院のスタッフ、そして横浜市大形成外科の林教授をはじめ教室員の皆様に心より御礼申し上げます。

2024年度を振り返って

2024年度は横浜市立大学形成外科にとって、例年にも増してより多くの出来事をくぐり抜けながら成長した年であった。

林礼人教授の就任祝賀会の台風による延期など想定外の事態も経験しながら、神奈川症例検討会の鳥飼勝行先生を偲ぶ会を含めた主催での運営、横浜形成外科フォーラムへの新たな地域医療をテーマとした取り組みなど挑戦的な1年であったと言える。

◆ 医局のイベントカレンダー

2024年度 医局行事	
2024年 5月23日	第1回 医局説明会
2024年 6月13日	第2回 医局説明会
2024年 7月 7日	第14回 日本褥瘡学会 神奈川在宅セミナー 主催
2024年 9月21日	横浜市立大学形成外科同門会総会
2024年11月 9日	神奈川症例検討会 主催
2025年 1月 6日	医局総会
2025年 1月12日	林 礼人教授就任祝賀会
2025年 2月15日	横浜形成外科フォーラム 主催

◆ 同門会・医局役員

同門会長	前川 二郎
主任教授	林 礼人
運営委員長	三木 亭人
副運営委員長	室田 悠美子
会 計	大久保 亜貴
書 記	奥山 智輝
監 事	荻野浩希、山本 康

林礼人主任教授就任祝賀会 ご挨拶

横浜市立大学医学部形成外科学講座

林 礼 人

本日はお忙しい中、遠方からも沢山の方々にお集まり頂き、誠に有難うございました。前回8月末に予定させて頂いた際には、台風の直撃による延期という事態となり、皆様に変なご心配とご迷惑をおかけ致しました。余り生じ得ない状況に自身の日頃の行いなども振り返りながら対応を行いましたが、大変多くの先生方から温かなお言葉やお花などに関する御配慮を頂き、ホテルの方々にもとても良い形でご対応頂くなど、皆様のお気持ちに支えられ今日まで過ごして行くことが出来ました。

今回も大雪などで開催が危ぶまれる事態となったらと、人生の中でこんなに天気が気になったことはありませんでしたが、2,3日前の天気予報を見るとこの時間に雪マークが付いており、それを見た時には、正に背筋が凍る想いを味わいました。しかし、前回延期になったことで御参加が可能になった先生方もいらっしゃる、本日お集まり頂いた先生方皆様のお力で、この場に立たせて頂けていることを改めて実感しております。皆様本当に有難うございました。

私は、1995年に順天堂大学を卒業し、本日もご臨席頂いている小川理事長が主催する皮膚科学教室に入局をしました。皮膚科を開業している母親と母と親交が深く皮膚科における皮膚外科学の父とも言える大原國章先生の顔面の皮弁移植手術を学生時代に見学し興味深く感じたことが皮膚科を選択するきっかけとなりました。皮膚科での研修は本日ご臨席頂いております浦安病院の高森先生をはじめ皆様が大変良くして頂きしっかりとした研修を行わせて頂いたのですが、初期研修を進めるうちに手術への想いが非常に強くなり、外科医として専門性を極め生業としていきたいとの考えから、初期研修修了後に形成外科に入局させて頂きました。その際には、順天堂大学の皮膚科の先生方に大変なご迷惑をおかけしたのですが、小川理事長はそうした自身の我が儘を認めて下さったのみならず、その後も様々な機会を与えて頂き、育てて下さりました。本日も大変ご多忙の中、御挨拶も頂き、その大きなお心とお気持ちに心から御礼申し上げます。また、その後の私に多くの場を与えて下さり、多大なご支援を頂きました順天堂大学形成外科の今は亡き梁井教授、水野教授、田中教授をはじめ順天堂大学に携わりました小室教授をはじめ多くの先生方にも改めて感謝申し上げます。

この度、初代主任教授である前川二郎先生の後任として、令和4年10月1日付けで横浜市立大学形成外科学講座に赴任させて頂きました。

赴任後2年3ヵ月を経過しているため、就任祝賀会としては少し新鮮味に欠けるところもあると思うのですが、赴任後時間が経過した分、横浜市立大学の一員として横浜市立大学の素晴らしさ、有り難さというものを実感しながら今日の日を迎えることが出来ており、私にとってのこの日がより意義深いものになったのではないかと感じています。

私自身、本学に赴任するまで横浜や横浜市大との関わりやゆかりというのは、正直申し上げまして殆ど無い状態でしたので、私を選考して頂いたと聞いた時は正直なところ大変驚きましたし、非常に有難く思いました。教授選には様々な要素が存在すると思うのですが、一人の医師としての自分を見て頂けたのかなと非

常に嬉しく感じたことを昨日の様に思い出します。語弊があるかもしれませんが、横浜市立大学はなんてフェアな大学なんだろうということを最初に感じました。

もっとも、個人的には学会などでこのみなとみらいに来る度に、駅から登ってくる長いエスカレーターと壁にシラーの詩が刻まれた光景にいつも感銘を受けながら、吸い込まれる様な不思議な感覚も覚えておりましたので、今日のこの日に繋がっていたのかなと運命的なものを感じています。改めまして、伝統ある横浜市立大学形成外科への道筋をお作り頂いた横浜市立大学の諸先生方に厚く御礼申し上げます。

実際に赴任させて頂きまして、最初に感じた通り、学閥的なものは皆無で、どの先生方にも大変温かく迎えて頂きました。その背景には前川先生をはじめ今までの市大形成外科の先生方が築いてこられた学内プレゼンスの高さがあると思われるのですが、遠藤院長には赴任後に御挨拶させて頂いた時に、新しいものを受け入れ開かれていることが、開港の歴史を有する横浜の大学である本学の校風なんだとお話しいただき、本当に良い機会を与えて頂いたと感じましたし、その有り難みや想いは日増しに大きくなっていくばかりです。

勤務を続けて思うのは、一人一人を尊重し物事を進めていく大学だなということでした、話合いの場も多く、互いに意見を遠慮無く出し合いながら様々な目標に一丸となって進んでいく体制やそこに集う先生方の大学への想いというものが、横浜市立大学という形態を作っていくのだな実感し、その中に加わらせて頂ける幸せを感じています。

また、個々の希望についてもしっかりと受け止めて下さり、赴任早々から専門領域の一つである血管腫・血管奇形に対する診療がより良い形になる様に、レーザー機器の購入や硬化療法も含めた血管内治療の臨床研究的な実現など様々な御配慮を頂いたり、HPの改訂やWebinar開催など、総務課をはじめ事務の方々からも積極的な御支援を頂き、実践することが出来ました。改めて御礼申し上げます。

そうした個々の想いを受け入れながら、皆が一丸となって目標に進んで行こうという雰囲気は、日本形成外科学会にも共通するものがあり、一人行き詰まった時も学会などで持ち上げて下さる先生方がいらしたり、いつも応援してくれる同世代の先生方に大きな力を頂いたり、形成外科としての一体感やぬくもりに勇気づけられ、ここまで行ってくることが出来ました。本日もご遠方からも非常に多く先生方のご臨席を賜り心より御礼申し上げます。

大学病院では、「教育」「研究」「診療」が3本柱とされますが、教育については、自身の見識や経験を淀みなく提供し、若い先生方が形成外科医としてのやり甲斐や喜びを感じ、楽しく学びながら、継続的なプレゼンスを発揮して貰える様、できる限りのサポートを行っていければと考えています。

研究については、末梢神経再生の基礎研究をライフワーク的に行ってきましたが、父親が眼科領域の免疫学の基礎研究者で基礎研究の意義や難しさについて小さな頃から教えられてきました。現在は病に倒れ病床で過ごしていますが、生を受けたこの世に自分が生きた証を残していくことの尊さを刻み込まれてきました。今後、形成外科における大学院教育を発展させ自身が培ってきたシーズを育てていくことで、「研究の横浜市立大学」を掲げる本学の教室として、大学の発展に微力ながら貢献していけたらと考えています。

診療については、形成外科の4大領域とされる外傷、先天性疾患、腫瘍、再建外科の全ての領域に、網羅的に携わってくる機会を得てきました。

中でも、皮膚悪性腫瘍や血管腫・血管奇形といった皮膚腫瘍領域に対する診療は自身にとって原点ともいえる領域で、各々の疾患に対し真摯に取り組み、赴任後も積極的に治験にも参加するなどより良い治療法の確立に尽力していきたいと思えます。また、顔面神経麻痺再建に代表される再建外科の領域についても、基礎研究も絡めながら、高難度新規医療として新たな手術法を実践する機会も頂き、国際的な発信をさらに推し進め、世界への扉をさらに大きく開けていきたいと思えます。再建外科の分野については、多くの診療科

の先生方と関わりながら高度先進医療を実現していく、形成外科の大きな特徴とも言える分野になりますが、各々の専門分野における責務を果たし、横浜市大における高度医療の実現に寄与していけることが大きな喜びになっています。

多様化する医療、情報化社会の中で、診療を受ける患者さん、伴に働く医師や看護師さんなど、集う全ての人々が、そこに居る意義や必然性を感じ取れる新たな拠点を生み出し、国際的な発信を推進しながら、良質な医療を更に発展させ、横浜の地域医療にも還元していけたらと思います。

これから医局の先生方ともども、そうした取り組みを一つずつ達成していけたらと思いますので、これからも変わらぬご支援の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

最後に、本日この様な素晴らしい就任祝賀会を主催して下さいました横浜市立大学形成外科並びに同門会の先生方に深く感謝申し上げます。とりわけ、本祝賀会の準備に奔走してくれた附属病院の北山先生をはじめ三木先生、奥山先生、秘書の遠藤さん、小檜山さん、司会の小久保先生、並びに同門会の青木先生、前任の前川先生に厚く御礼申し上げます。

そして何より、本日私がこの様な場に立てるのは、日頃から自分を支えてくれている家族があってこそになります。医師としての道を教えてくれた両親、自分に生きる意義と活力を与えてくれている子供達、そして何より誰よりその子供達を立派に育て、もう一人の子供のようになってしまっている自分を全身全霊でサポートしてくれている妻令子に心から感謝しています。

まだまだ、若輩者の私で、至らぬところも多々あるかと思われます。不断前進の気持ちでさらに邁進し、横浜市立大学形成外科を飛躍させ、横浜市立大学の発展に少しでも寄与出来ればと思います。

今後とも皆様のご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

本日は誠に有難うございました。